

二〇二五年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第二回 問題

国語【五十分・百五十点】

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから13ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受 験 番 号					名 前
P					

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある）
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

手に太陽の光が当たっている。

① 陽の光が当たると、手の甲が温かい。

窓の外を見れば、光がまぶしく感じられる。

私たちは光をどこで感じているのだろうか。

かの昆虫学者のファールには、幼少の頃のこんなエピソードがある。

幼き日のファールは、太陽がまぶしいのはどうしてなのか疑問に思った。

太陽の方を向いて口を閉じてみてもまぶしい。耳を塞いでもまぶしい。鼻を隠してもまぶしい。そして、目を閉じてみると……まぶしくない。

そして、ファール少年は、太陽をまぶしく感じるのは、目があるからだという結論に達するのである。

そんなこと当たり前ではないかと思うかもしれないが、そうではない。

当たり前のように思えることを疑問に思うこと、そして、自ら確かめるということが大切なのだ。

ファールの祖母は、ファール少年の発見を熱心に聞いてあげたという。

② こんな探究心が、後のファールを作り上げたのである。

③ 私たちは目で光を感じている。

そんなことは当たり前である。

しかし、よくよく考えてみると、目というのは不思議な存在で

ある。

私たちは目から入ってきた光を、最終的に脳で認識する。

A、目に入ってきた光を、信号に変えて脳に送らなければならぬのだ。

たとえば、テレビは映像や音声電気信号に変換して送信する。

そして、テレビは受信した電気信号から、映像と音声を作り出す。

目のしくみもまったく同じである。

目の奥にある網膜で捉えられた光は、電気信号に変換されて、神経細胞によって脳に伝えられる。そして、私たちの脳はその電気信号を元にして、映像を作り出すのである。このとき網膜で光

を捉える役割をしているのはオプシンと呼ばれるタンパク質でできた受容体である。

私たちは目で光を感じている。

そんなことは当たり前である。

しかし、私たちは、本当に目だけで光を感じているのだろうか。たとえば、太陽の光が当たった手の甲は温かい。

これは太陽光に含まれる赤外線を、肌が感知しているからである。

B、太陽光の紫外線を浴びると、私たちの肌は日焼けをする。

肌が紫外線を防ぐためにメラニンという黒い色素を作り出すのだ。

メラニン色素は、目が紫外線を感知すると生成されると言われている。しかし、体全体が黒くなるわけではなく、陽に当たったところが日焼けをして黒くなり、服を着ていて陽が当たらないところは白い。

ということは、肌自身が光が当たっていることを感知してメラニン色素を生成していることになる。

つまり、肌が紫外線という光を感じているのだ。

【あ】

紫外線は波長の長い光で、紫外線は波長の短い光である。

紫外線から紫外線の間には、波長の異なる光がある。これが虹のグラデーションのように紫色から赤色までの目に見える光である。

【い】

赤外線と紫外線を感じているということは、肌は赤外線と紫外線の間にある目に見える可視光も感知していると考える方が自然である。

【う】

実際に、人間の肌の細胞には、人間の目と同じように光の強弱や色を識別する受容体があり、紫外線だけでなく、赤外線や可視光に対しても、^④光から肌を守るために、さまざまな防御反応を示すという。

【え】

受容体があり、反応を示すということは、肌も光を感じているということなのだ。

皮膚が光を感じるというのは、^(注)荒唐無稽な感じもするが、そんなことはない。

【お】

私たちの皮膚が光を感知したとしても、何ら不思議はないのだ。それでは逆に、光を感じる「目」という器官は、どのような器官なのだろう。「目」も皮膚や他の器官と同じような細胞ででき

た器官である。

皮膚が光を感じるかもしれないが、景色を見ることはできない。私たちのまわりの世界を、単なる光ではなく、鮮やかな映像として捉えることのできる「目」というのは、相当に不思議な存在だ。

目は、どのようにして光を捉え、景色を見ているのだろうか？

私たちの目は、光の受容体であるオプシンを持つことによって、光を捉えることを可能にした。

それでは、「光を捉える」という複雑なしくみを、私たちはどのように獲得したのだろうか。

その答えは、じつはよくわかっていない。

^⑤人間の目の進化は、謎に満ちている。

目という不思議な器官がどのようにしてできたのか、じつはよくわかっていないのだ。

現在の進化論は、「突然変異」と「自然選択」によって説明されている。

たとえば、キリンの祖先は首が短かった。

その中で少し首の長いキリンが突然変異で生まれたとする。少し首の長いキリンは、他のキリンよりも高い木の葉を食べることができるので、生存に有利である。そのため、少し首の長いキリンが生き残る。

少し首の長いキリンの子孫は、他のキリンの子孫よりも首が少し長いかもしれない。

こうして、少し首の長いキリンの子孫が増えて集団が作られると、さらにその中でも首の長いキリンが突然変異で生まれる。そのキリンは高い木の葉を食べることができるので、生存に有利に

なる。そして、首の長いキリンが生き残る。

これを繰り返すことで、^⑥首の長いキリンに進化するといふのである。

しかし、この進化論では、目の進化を説明することができない。「目」は極めて高性能で複雑な器官である。

少しずつ少しずつ突然変異を繰り返して、目が見えるようになったとする。しかし、目が見えるようになるまで、「目」という器官は何の役割も持たないから、未完成の目を持っていたとしても、何のメリットもない。

メリットがないような突然変異が生き残りながら、進化を遂げていくことはないのだ。

しかも、目は、進化の過程で突然現れた。

たとえば、キリンであれば首の短いキリンの祖先種がいて、その後、少し首の長い祖先種も発見されている。そのため、キリンは少しずつ首を伸ばしてきたことが推察されるのだ。

しかし、目は違う。

目の原型のようなものを持つ生物や、まだ見えない目を持つような生物は発見されていない。

⑦「目」は生物の進化の過程で突然、出現する。

そして、「目」を獲得した生物は、効率良く餌を見つけたり、敵を見つけて逃れる術を手に入れて、劇的な進化を遂げていくのだ。

「目」は本当に謎に満ちた器官である。

一説によると、それは植物に由来するとも言われている。

小さな植物プランクトンが、効率良く光合成をするために、光を感じるセンサーを発達させた。それがオプシンである。

このオプシンを含む植物プランクトンを食べた原始的な生物が、遺伝子の中に取り込んだという仮説が立てられているのである。

もし、私の体の遺伝子が植物に由来するものとしたら、どうだろう。

植物と人間は、似ても似つかない生物である。

何しろ彼らは動かない。

私にとっては動かないで生きていける植物は、とても不思議な存在だが、植物にしても、動かなければ生きていけない人間は、相当に不思議な存在だろう。

（稲垣栄洋『手を眺めると、生命の不思議が見えてくる』）

※（注1）荒唐無稽Ⅱ言動に根拠がなく現実味がないこと。でたらめであること。

問1 — ①「陽の光が当たると、手の甲が温かい」とあるが、なぜか。理由として最も適切な一文を本文中から探し、最初の五字をぬき出しなさい。

問2 — ②「こんな探究心」とあるが、どのような探究心か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 当たり前だと思う現象でも自分の五感で確かめ、常識をくつがえすというような探究心。

い 当たり前に思えることもすべて文献ぶんけんにあたり、くわしく調べるといような探究心。

う 当たり前のことでもその内容に興味をもち、熱心に聞くといような探究心。

え 当たり前に思えることを疑問に思い、自分で確かめるといような探究心。

問3 — ③「私たちは目で光を感じている」とあるが、そのしくみを説明した次の表のⅠ・Ⅱ・Ⅲにあてはまる言葉を、それぞれ（ ）の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

・網膜にある	Ⅰ（三字）	が光を捉える。
・捉えた光を	Ⅱ（六字）	脳に伝える。
・脳が色鮮やかな	Ⅲ（七字）	。

問4

A	・	B
---	---	---

 にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ A あるいは B では

い A だから B つまり

う A つまり B あるいは

え A しかし B だから

問5 本文には、次の一段落がぬけ落ちている。【あ】～【お】のうち、どこに戻すもどのが最も適切か。最も適切な場所を選び、記号で答えなさい。

たとえば、タコは、皮膚の細胞が光を感知して、まわりの環境かんきょうにあわせて皮膚の色を変化させることが知られている。

問6 — ④「光から肌を守るために、さまざまな防御反応を示す」とあるが、紫外線に対して肌が示す防御反応とはどのようなことか。それについて説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から十六字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※肌を紫外線から守るために、□こと。

問7 — ⑤「人間の目の進化は、謎に満ちている」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から十二字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※目のような□が突然現れたから。

問8 — ⑥「首の長いキリンに進化する」とあるが、キリンの首はどのように進化していったと考えられているか。それについて説明した次の文の□にあてはまるように、首の長いキリンの餌のとらえ方に関連づけて五十字以内で書きなさい。

※元々はキリンの祖先は首が短かったが、□が生き残り、子孫を増やして進化していった。

問9 — ⑦「『目』は生物の進化の過程で突然、出現する」とあるが、筆者はその理由としてどのような説を挙げているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 光の受容体であるオプシンを発達させたのは植物プランクトンで、それを食べた生物が遺伝子に取り込んだという説。
- い 効率良く光合成を行うために、光を感じるセンサーを発達させたと思われる原始的な生物が残っていないという説。
- う 目の原型のようなものを持つ原始的な生物が、敵からのがれるためにオプシンという遺伝子を取り込んだという説。
- え オプシンを含む植物プランクトンが、動かなければ生きていけない原始的な生物に徐々に発達していったという説。

問10 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

- ① 昆虫学者のファールブルは、太陽がまぶしいのはなぜか疑問に思い、色々と確かめた結果、目があるからだという当たり前のような結論に達した。
- ② 私たちは目から入ってきた光を目の奥にある網膜で捉えるが、その役割を果たしているのはオプシンと呼ばれるタンパク質でできた部分である。
- ③ キリンが少しずつ首を伸ばしてきたと推察できるのは、首の短いキリンの祖先種やとても首の長いキリンの祖先種が発見されているからである。
- ④ 植物と人間は似ても似つかない生物でありながら、人間の体の遺伝子が植物に由来するものであるという仮説は、人の進化を否定するものだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある

問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

開いた教室の窓から、火照った身体を冷ます風が吹いてくる。窓際では白くて大きなカーテンが揺れる。①普段の授業なら思わず眠くなるような空気が漂っているが、今日は違う。それどころか、ワクワクしながら自分の番を待つ。

前の席の柴田浩輔が発表を終え、クラスメイト、先生、そして後ろに立っている保護者たちが拍手を送る。

今日は空が通う羽斗小学校の授業参観日だった。国語の授業で、それぞれが作文を発表する。

テーマは「将来の夢」。

「はい。ありがとう。いいね浩輔！ プロ野球選手！ でももう4年生なんだから、野球だけじゃなくて授業中は勉強を真剣にやってね。ねえお母さん」

先生が浩輔に語りかけながら浩輔のおばちゃんの方を見てA。その瞬間、クラス中からドツと笑いが起きた。男子のほとんど全員と、一部の女子がクルリと体勢を変えて保護者の方を見ると、浩輔のおばちゃんが「うんうん」と頷いていて、さらに笑いが起きた。

「はい次。空！」

「はい」

先生に指名された空はあえてだるそうな返事をして立つ。

「え」

作文用紙を前に掲げ、まさに読み上げようとした瞬間、「僕の夢は女子にモテまわることです」

と、浩輔がわざと高い声を出して、いかにも空が言っているかのようなフリをした。

クラスからさらに笑いが起きた。

② 空は「やめろや！ 違うわ！」と笑いながら浩輔の背中を叩く。

「はーい。人の発表の邪魔はしないよー」

先生が仕切り直して、徐々に空気が戻る。

「えー、将来の夢、4年2組福嶋空」

名前まで言い切った後に、少し周りに目をやる。クラスの名前が自分を見ている。

③ 空は、自信ありげに続けた。

「僕の将来の夢は、宇宙に花火を打ち上げることです。遠くに住んでいる人も全員、空を見上げると花火が見えるようにします。そうして、世界の全員を笑顔にします」

ここまで言い終えると、また作文から目を離して、周りを見た。クラスメイトはみんな、特に変わらなく空を見ていた。

夢を告げた瞬間に「すげー！ ヤバい！ さすが空！」と、大歓声が湧くと信じていた空は、「あれ？ 聞こえてなかったのかなあ？」と疑問を抱く。すると、空とは反対側の席に座っている西川が声をはり上げた。

「えっ！ えっ！ 無理やねんで！ 宇宙って空気がないから燃えへんねんで！」

西川はクラスで一番のお調子者で、自分の知っている事を披露したくてたまらないといった顔をしていた。

西川の言葉の後、クラスの数人が笑った。数人が笑うと、つられるように、クラス中から小さな笑いが重なっていく。

「てか顔上げたら全員見れるってそれ、どーんだけ大きいロケツトやねん！」

笑いが起きたことで嬉しくなった西川は続ける。さらに数人が笑った。

「はーい！ 西川黙れ！」

先生が西川に厳しく注意すると、またクラス中が笑った。④ 西川は止まらず「しかも全員が顔上げたらって、地球丸いねんから反対側の人見れへんやん！ こうやって、見ないとあかんのちゃう!?」と言い、席を立ち、股のぞきをしてみせた。その瞬間、クラスからは割れるほどの笑いが起きた。

授業参観というイベントで見事に笑いをとった西川はとても嬉しそうで、他の男子も西川に続けと「空！ 諦めろ！」「意味不明な夢やん！」などの声をはり上げ、女子は大きく笑う。西川と同じポーズを取るものも数人いた。

空は1年生の頃から、クラスで笑いをとることが大好きだった。西川のことは勝手にライバル視していたが、そんな西川が笑いをとることも嬉しかったし、2人で一緒にふざけ合ったりもした。さっきの浩輔のイジリにも「やめろや！」と強めにツッコミを入れたが、内心では「よくやった！」と思っていた。

とにかくみんなの笑顔が好きだった。

⑤ そんな空が、この瞬間だけは、喜ぶことができなかった。いつもと同じクラスの笑い声、みんなの笑顔なのに、空には胸が締め付けられる感覚があった。理由は分からない。

「反対側でも花火打ち上げたら良いんじゃないん!? 分身の術！ ってやって！」西川が忍者のポーズを取りながら、また叫ぶ。

その時、「バン！」と黒板を強く叩く音がした。

笑っていたクラスメイトが一気に怯える。先生が、黒板に叩き終えた手を添えていた。「いい加減にしなさい！」先ほどまで何度も言っていた言葉が、はじめて全員の耳に届く。「友達の夢をケラケラ笑うな！」と先生は大きな声で怒鳴った。

クラスに静寂が訪れた後、西川が「やってしまった」という顔をして、「空、ごめん」と言った。空はすぐに「え！ 全然！」と空気で返す。無理をした笑顔だと、西川に伝わってしまったかもしれない。

先生が「西川だけちゃうで。全員や。友達の夢を笑うなんて最低やで。」⑥ まだみんなは子供なんやから、どんな夢持ってもいいの。空、大丈夫やからね」と、空の方を見て笑ってくれた。

空は「はい」と返事をする。笑いが起きている瞬間は辛かったが、終わってしまうと別の恥ずかしさがある。

空が作文用紙を持って続けようとした、その時。

「⑦ バカモン！」

大きな声が教室に響いた。

今度は教壇ではなく、後ろからだ。

空にとっては聞き覚えのある声だ。見渡すとクラスの全員が、振り返っていた。みんなの視線の先にいたのは、鬼のような形相をした空の爺ちゃんだった。

空は「怒られるのか？」と怯えたが、爺ちゃんが見ているのは、先生だった。

「なんじゃ、まだ子供だから、どんな夢を持ってもいいって。空の夢が何かおかしいんか！ どんなつてなんじゃ！ 子供やなくなったら、持ったらあかん夢なんか！」

爺ちゃん(注)は寡黙な性格で、ほとんど人と会話することはない。

毎年9月に花火を打ち上げている地元では有名な花火職人で、つい1か月ほど前にも地元の花火大会でみんなを魅了したばかりだ。その時に見せていた優しく穏やかな笑顔の印象があったので、友達みんなびっくりしていると思う。空も、怒られることはよくあったが、ここまで本気で叫んでいる爺ちゃんを見たのははじめてだった。

「すみません。そういう訳ではないのですが」

先生がすぐに謝った。たしかに、先生は可哀想だ。空のことをかばって怒ってくれたというのに。

それでも、爺ちゃんは止まらない。

「なんで先生が！ 凄いな！ って！ できるよって言うらのじゃ！」

また叫びはじめたのを見て、爺ちゃんの隣にいた空の母親が痺れを切らした。

「もう、お父さんやめ！ 捉え方やないの！ すみません。連れて行きます」

と言って、爺ちゃんを引っぱって廊下へ消えていった。

クラスは静まり返った。

先生は「ごめんね」と空に謝った後、後ろの保護者たちにも謝罪をしていたが、気まずい雰囲気は変わらなかった。「あ！ 間違えました！ 僕の夢は女子にモテまわることです！」って言えばウケるかも？ と思ったが、廊下にいる爺ちゃんに聞かれたら帰ってからタコ殴りにされる気がして、やめた。

それでも、笑いが起きた時に感じた嫌な気持ちは、空の心の中からなくなっていた。

※(注1) 寡黙Ⅱ口数が少ないこと。
(松井尚斗『宇宙に花火を。』)

問1 — ①「普段の授業なら思わず眠くなるような空気が漂っ

ているが、今日は違う」とあるが、今日の授業はどのような授業なのか。次の文のⅠ・Ⅱにあてはまる言葉を、それぞれの()内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※ Ⅰ(五字)が見守る中、Ⅱ(七字)授業。

問2 Aに入る言葉として、最も適切なものを後から選び、

記号で答えなさい。

- あ 同情をさそう
い 同意を求める
う あきれた顔をする
え 苦しい言い訳をする

問3 — ②「空は『やめろや! 違うわ!』と笑いながら浩輔

の背中を叩く」とあるが、このときの「空」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 待ちに待った自分の番がやってきて、まさに読み上げよう

とした瞬間、邪魔をしてきた浩輔にいら立つ気持ち。

い 先生に指名されてだるそうにしている空の代わりに、注目を集めるような発言をしてくれた浩輔に感謝する気持ち。

う 女子にモテたいのは浩輔なのに、いかにも空が言っているかのようなフリをする浩輔にあきれる気持ち。

え 空のフリをした浩輔がわざと高い声を出して発言したおかげで笑いがとれたことが、まんざらでもない気持ち。

問4 — ③「空は、自信ありげに続けた」とあるが、「空」は

どういう自信があるのか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 自分の夢を知れば、みんなが喜んで大騒ぎするだろうという自信。

い 自分の夢は実現するのは難しいが、どの夢よりもすばらしいものだという自信。

う 自分の夢がみんなに知られたところで、特におどろかれることはないという自信。

え 自分の夢に対する賛辞は先生からも得られるにちがいないという自信。

問5 — ④「西川は止まらず」とあるが、なぜか。その理由を

説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から十一字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※自分の発言によって□に成功し、調子にのっているから。

問6 — ⑤「そんな空」とあるが、「空」はどのような人物か。

最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 小さい頃からみんなの笑顔が好きで、ライバルである西川

よりも自分が笑いをとることを喜ぶ人物。

い 4年生になってから西川と2人で一緒にふざけ合っていて、

浩輔にいじられることがよくある人物。

う 1年生の頃から、発端が自分であろうと西川であろうと、

みんなを笑わせることが大好きな人物。

え 普段からクラスで笑いをとることが大好きで、同じ性質の

西川からライバル視されている人物。

問7 — ⑥「まだみんなは子供なんやから、どんな夢持ってて

もいいの」とあるが、この発言から爺ちゃんは先生のどのような気持ちを感じたか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 空の夢は西川が言うように実現するのが無理で、成長する

うちに諦めることになるだろうという気持ち。

い 宇宙に花火を打ち上げようと思ったとしても大変なので、

今のうちに勉強を真剣にさせようという気持ち。

う 空の夢はつまらない夢ではあるが、子供のうちはそんな夢

を持つても仕方がないだろうと諦める気持ち。

え 世界中の人から見える花火なんて打ち上げられないが、花

火職人の顔を立てておこうと遠慮する気持ち。

問8 — ⑦「バカモン！」とあるが、先生の何が爺ちゃんを激

怒させたのか。それについて説明した次の文の□Ⅰ・□Ⅱにあてはまる言葉を、それぞれの（ ）内の字数指定にしたがって、本文中からぬき出しなさい。

※クラスの生徒に向けて□Ⅰ（七字）ことを叱っただけで、

空の夢が□Ⅱ（六字）ことだと考えているように受け取る発言をしたこと。

問9 ― ⑧「痺れを切らした」とあるが、本文と同じ意味で「痺れを切らす」が用いられている文を後から選び、記号で答えなさい。

- あ 長時間で正座をしていたため、足が痺れを切らした。
い なかなか来ないので痺れを切らして帰ってしまった。
う ビタミンが不足していて、手足の痺れを切らした。
え 妹はいざ人前で歌おうとすると痺れを切らしてしまう。

問10 先生の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- あ 生徒や保護者を笑わせながら授業をする調子のいい人物。
い 自分の思い通りに授業が進まないと腹を立てる横柄な人物。
う 生徒を守るためにだれにでも立ち向かう正義感の強い人物。
え 正義感が強く悪いことには毅然とした様子で応じる人物。

問11 あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合った。次に示すのは、本文に登場する「空」の心情の移り変わりについて話し合っている雪村さんたちの様子である。本文の内容をふまえて、☐X・☐Y・☐Zにあてはまる言葉を、☐Xは十字以内で説明し、☐Yは後から選び、記号で答えなさい。また、☐Zは本文中から八字でぬき出しなさい。

雪村 みんなの笑顔が好きで空が、☐X(十字以内)と
きだけは喜ぶことができなかったのはなんでだと思
う？

花岡 自分が冷やかされるのが嫌だったというわけではな
いよね。

月野 教室の気まずい雰囲気を変えるために、浩輔の冷や
かしに便乗しようかと考えたくらいだし、それはない
よね。

花岡 やっぱりみんなに自分の夢を否定されたことがショ
ックだったんじゃないかな。そんなことになるとはち
つとも考えていなかったようだし。

月野 そうだね。自分の夢についてさんざん否定されてい
るのに、笑いがとれてよかったとはならないよね。

花岡 「終わってしまうと別の恥ずかしさがある」ともあ
るし、空の夢に対する先生の発言も、まさに☐Yだ
と言えるよね。

雪村 だから空にとつて爺ちゃん存在は救いだよね。最
終的に空の中から嫌な気持ちがなくなっているけど、
これは空のために☐Z(八字)爺ちゃんの姿を、空
は見たからだと考えられるよ。

- あ 渡りに船
い 鬼の目にもなみだ
う ぬかに釘
え あぶはち取らず

三 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 家の前の道路がカクチョウされる。
- ② 舞台上でシツタイをおかす。
- ③ ホテルのフロントに荷物をアズける。
- ④ 今回は少数派の意見も尊重する。
- ⑤ 材料を混ぜて厚さを均一にする。
- ⑥ 母の友人から入学祝いの品を頂く。

問2 次の熟語のうち、①・②は同義語（意味が同じ言葉）、③・④は対義語（意味が反対の言葉）となる熟語を、漢字で書きなさい。熟語は、後の漢字群から二字を組み合わせて答えなさい。

- ① 案外
- ② 厚意
- ③ 手段
- ④ 現実

理内外法切圧想目
方親友意的相情適

四 次の各問いに答えなさい。

問1 にあてはまる漢字一字を書き、ことわざを完成させなさい。また、そのことわざの意味に近いことわざを後から選び、記号で答えなさい。

- ① 転ばぬ のつえ
- ② とらぬたぬきの 算用

あ 泥棒をとらえて縄をなう
い 転んでもただでは起きない
う 石橋をたたいて渡る
え 絵にかいたもち
お たなからばたもち

問2 次のあゝおの四字熟語の にあてはまる漢字のうち、四つを並びかえると新たな四字熟語ができる。その四字熟語につかわれない漢字が にあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

あ 語道断
い 有名無
う 一心 乱
え 品 方正
お 油 大敵

問3 次の文中の が直接かかる言葉をそれぞれ㉠～㉣から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① ㉠資料館は ㉡レンガで てきた ㉢古い ㉣小さな
㉤建物で ㉦おもむきが ㉧あると ㉨言われる。
② ㉠夜に スズムシの ㉡いかすかな ㉢声を ㉣聞くと
㉤私は ㉦秋を ㉧身近に ㉨感じる。

問4 次の①～⑤の各文について、日本語として正しければあを、間違っていればいを書きなさい。

- ① ぼくのしゅみは乗り物や建築物のプラモデルを作ります。
② 彼は来年から日本の大学に交換留学生として学びます。
③ 最近進みたい道が決まった姉は、勉学にいそしんでいる。
④ 私はみんなの前で自分の考えを発言するのが苦手です。
⑤ 先人の過ちを他山の石として、自分の行いを改めていく。

以上で問題は終わります。

2025 年度 入試向け
桃山学院中学校 プレテスト第2回 問題

算 数

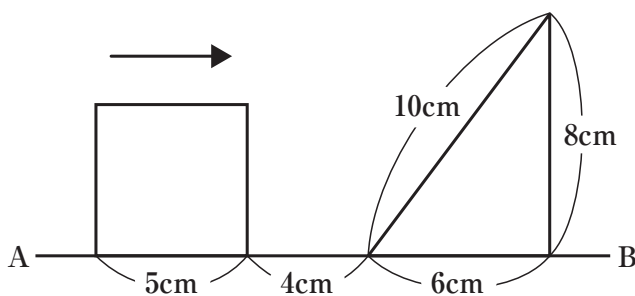
【50分・150点】

注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受 験 番 号					名 前
P					

- 3** 右の図のように、直線 AB 上に、1 辺 5cm の正方形と、3 辺の長さが、6cm, 8cm, 10cm の直角三角形があります。この状態から、直角三角形は動かさず、正方形を矢印の方向に毎秒 1cm の速さで動かします。このとき、次の問いに答えなさい。



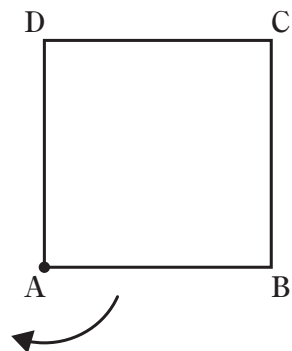
- (1) 動き始めてから 7 秒後の 2 つの図形の重なった部分の面積は何 cm^2 ですか。
- (2) 重なった部分がはじめて長方形になったときの、その長方形の面積は何 cm^2 ですか。

4 A, B, C の 3 人が, 1 本道の同じ地点から同じ方向に歩きました。はじめに, A が分速 40m でスタートし, その 4 分後に B がスタートしました。そして, 少したってから C が分速 64m でスタートしたところ, A は, スタートしてから 12 分後に B に追いこされ, 16 分後に C に追いこされました。ただし, 3 人の歩く速さはそれぞれ一定とします。このとき, 次の問いに答えなさい。

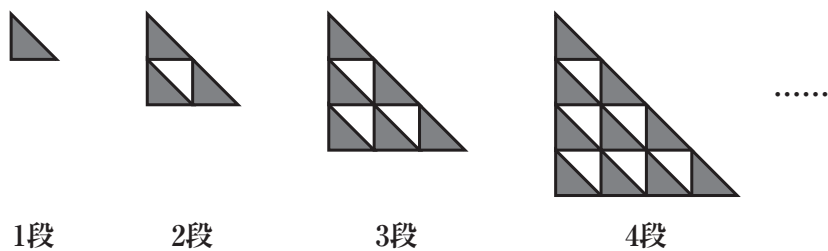
- (1) B は分速何 m で歩きましたか。
- (2) C は A がスタートしてから何分後にスタートしましたか。
- (3) C が B を追いこしたのは, C がスタートしてから何分後ですか。

- 5** 右の図のような 1 辺 10cm の正方形を、頂点 A を中心として矢印の方向に回転させ、点 B がはじめに点 D があった場所に重なるまで移動します。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 点 B が通ったあとは何 cm ですか。
- (2) 対角線 AC が通った部分の面積は何 cm^2 ですか。
- (3) 辺 BC が通った部分の面積は何 cm^2 ですか。



- 6** 白と黒 2 色の同じ大きさの直角二等辺三角形のタイルがたくさんあります。このタイルを黒いタイルが白いタイルの外側になるようにすき間なくしきつめて、下の図のように直角二等辺三角形を作っていきます。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1) 9 段までならべたとき、使ったタイルは白黒合わせて何枚ですか。
- (2) 黒いタイルが白いタイルより 30 枚多くなるとき、黒いタイルは何枚ですか。
- (3) 黒いタイルと白いタイルの枚数の比が 23 : 21 になるのは何段のときですか。

以上で問題は終わりです。



202510130

2025年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第2回
算数 解答用紙

受験番号					名前
P					
	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

1	(1)		(2)	
	(3)		(4)	

2	(1)	A : C = :	(2)		円
	(3)		通り	(4)	cm
	(5)		回目	(6)	cm ³

3	(1)		cm ²	(2)		cm ²
---	-----	--	-----------------	-----	--	-----------------

4	(1)	分速	m	(2)		分後	(3)		分後
---	-----	----	---	-----	--	----	-----	--	----

5	(1)		cm	(2)		cm ²	(3)		cm ²
---	-----	--	----	-----	--	-----------------	-----	--	-----------------

6	(1)		枚	(2)		枚	(3)		段
---	-----	--	---	-----	--	---	-----	--	---

合計
※

2025年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第2回

解答と配点

目 次

解 答

1 国語 (50分・150点) P. 1

2 算数 (50分・150点) P. 1

配 点 P. 2

解 答

国 語

- 一 問1 これは太陽 問2 え
問3 I 受容体 II 信号に変えて III 映像を作り出す
問4 う 問5 【お】 問6 メラニンと 問7 極めて高性
問8 (例) 少し首の長いキリンが突然変異で生まれ、高いところの木の葉を食べることができて、生存に有利なキリン [48字]
問9 あ 問10 ① あ ② あ ③ い ④ い
- 二 問1 I 保護者たち II 作文を発表する 問2 い
問3 え 問4 あ 問5 クラスで笑 問6 う
問7 あ 問8 I 友達の夢を笑う II 何かおかしい
問9 い 問10 え
問11 X (例) 自分の夢を笑われた [9字] Y う
Z 本気で叫んでいる
- 三 問1 ① 拡張 ② 失態 ③ 預 (ける)
④ そんなよう ⑤ きんいつ ⑥ いただく (く)
問2 ① 意外 ② 親切 ③ 目的 ④ 理想
- 四 問1 ① 先・う ② 皮・え
問2 お 問3 ① お ② う
問4 ① い ② い ③ あ ④ あ ⑤ あ

算 数

- 1 (1) 42 (2) $\frac{5}{4}$ (3) $\frac{5}{6}$ (4) $\frac{5}{2}$
- 2 (1) 35 : 36 (2) 210 円 (3) 33 通り (4) 8cm
(5) 20 回目 (6) 1116cm³
- 3 (1) 6cm² (2) $11\frac{1}{4}$ cm²
- 4 (1) 分速 60m (2) 6 分後 (3) 30 分後
- 5 (1) 47.1cm (2) 471cm² (3) 235.5cm²
- 6 (1) 81 枚 (2) 465 枚 (3) 22 段

配 点

国 語

一 問 1…4 点
問 4…4 点
問 7…4 点
問 10…各 2 点

問 2…4 点
問 5…4 点
問 8…10 点

問 3…各 4 点
問 6…4 点
問 9…4 点

合計 58 点

二 問 1…各 2 点
問 4…4 点
問 7…4 点
問 10…4 点

問 2…4 点
問 5…4 点
問 8…各 2 点
問 11…各 4 点

問 3…4 点
問 6…4 点
問 9…4 点

合計 52 点

三 各 2 点

合計 20 点

四 各 2 点（問 1 各完答）

合計 20 点

算 数

1 各 8 点
2 各 8 点
3 各 8 点
4 各 6 点
5 各 6 点
6 各 6 点

合計 32 点

合計 48 点

合計 16 点

合計 18 点

合計 18 点

合計 18 点

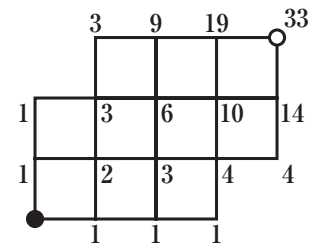
2025年度入試向け プレテスト第2回 解説

1 計算問題

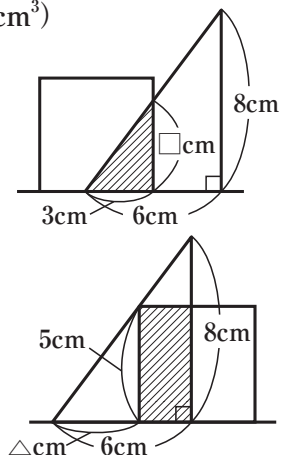
- (1) $(89 + 64) \times 7 \div 63 + 25 = 153 \times 7 \div 63 + 25 = \frac{153 \times 7}{63} + 25 = 17 + 25 = 42$
- (2) $(12 - 4.5) \div \frac{1}{3} \times \left(\frac{7}{6} - \frac{10}{9} \right) = 7.5 \times 3 \times \frac{1}{18} = \frac{15 \times 3 \times 1}{2 \times 18} = \frac{5}{4}$
- (3) $\left(\square - \frac{8}{15} \right) \div \frac{14}{15} = 0.75 - \frac{3}{7} = \frac{3}{4} - \frac{3}{7} = \frac{9}{28}$ $\square - \frac{8}{15} = \frac{9}{28} \times \frac{14}{15} = \frac{3}{10}$
 $\square = \frac{3}{10} + \frac{8}{15} = \frac{5}{6}$
- (4) $\frac{1}{300} \text{ km} = 1000 \text{ m} \times \frac{1}{300} = \frac{10}{3} \text{ m}$ $\frac{200}{3} \text{ cm} = \frac{1}{100} \text{ m} \times \frac{200}{3} = \frac{2}{3} \text{ m}$
 $\frac{500}{3} \text{ mm} = \frac{1}{1000} \text{ m} \times \frac{500}{3} = \frac{1}{6} \text{ m}$ $\frac{10}{3} \text{ m} - \frac{2}{3} \text{ m} - \frac{1}{6} \text{ m} = \frac{5}{2} \text{ m}$

2 小問集合

- (1) B の比を 8 と 14 の最小公倍数 56 にそろえると, $A : B = 5 : 8 = 35 : 56$,
 $B : C = 14 : 9 = 56 : 36$ よって, $A : C = 35 : 36$
- (2) 定価 560 円は仕入れ値の, $1 + 0.6 = 1.6$ (倍) 仕入れ値は, $560 \div 1.6 = 350$ (円)
 利益は, $560 - 350 = 210$ (円)
- (3) 道と道がつながる点ごとに, そこまでに行く方法が何通りあるかを書くと, 右の図のようになる。○手前までに行く方法が 19 通りと 14 通りあるので, 求める道順は, $19 + 14 = 33$ (通り)
- (4) 大小 2 つの円の直径の和は, $65.94 \div 3.14 = 21$ (cm)
 小さいほうの円の直径の 2 つ分は, $21 - 5 = 16$ (cm)
 小さいほうの円の直径は, $16 \div 2 = 8$ (cm)
- (5) はじめの 8 回で平均 90 点に足りない点数の合計は, $(90 - 76) \times 8 = 112$ (点) 9 回目からは 90 点より, $100 - 90 = 10$ (点) ずつ多くとって 8 回までに不足していた点数を補うと,
 $112 \div 10 = 11$ (回) 残り 2 (点) より, $8 + 11 + 1 = 20$ (回目)
- (6) 底面の台形の面積は, $(11 + 20) \times 12 \div 2 = 186$ (cm²),
 周りの長さは, $12 + 20 + 15 + 11 = 58$ (cm), 側面の面積の和は, $720 - 186 \times 2 = 348$ (cm²)
 四角柱の高さは, $348 \div 58 = 6$ (cm) よって, 体積は, $186 \times 6 = 1116$ (cm³)

**3** 図形の移動と重なり

- (1) 7 秒で 7cm 動くと, 右の図のように重なる部分は底辺の長さが, $7 - 4 = 3$ (cm) の直角三角形になる。 $3 : \square = 6 : 8$ より, $\square = 4$
 よって, 面積は, $3 \times 4 \div 2 = 6$ (cm²)
- (2) 重なる部分がはじめて長方形になるのは右の図のようになるとき
 $\triangle : 5 = 6 : 8$ より, $\triangle = \frac{15}{4}$ 重なった部分の長方形の横の長さは,
 $6 - \frac{15}{4} = \frac{9}{4}$ (cm) よって面積は, $5 \times \frac{9}{4} = 11\frac{1}{4}$ (cm²)



4 旅人算

- (1) A が 12 分で進んだ道のりを, B は, $12-4=8$ (分)で進んでいる。

B の分速は, $40 \times 12 \div 8 = 60$ (m)

- (2) A が C に追いこされたのは出発地点から, $40 \times 16 = 640$ (m)の地点で, C がその地点を通るまでにかかる時間は, $640 \div 64 = 10$ (分)

よって, C がスタートしたのは A がスタートしてから, $16-10=6$ (分後)

- (3) C がスタートしたとき, B は, $60 \times (6-4) = 120$ (m)進んでいるので, そこから C が B を追いつくまでにかかる時間は, $120 \div (64-60) = 30$ (分後)

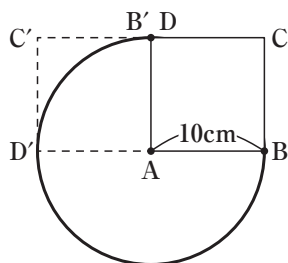
5 図形の回転移動

- (1) 点 B が通ったあとは, 下の図のように直径が 20cm の円周の $\frac{3}{4}$ で, $20 \times 3.14 \times \frac{3}{4} = 47.1$ (cm)

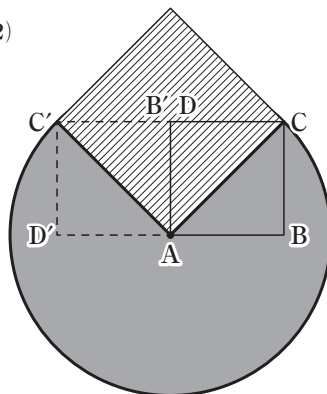
- (2) 対角線 AC が通った部分の面積は, 半径が AC の円の面積の $\frac{3}{4}$ (下の図の色をつけた部分)
半径 $\times$ 半径は AC を 1 辺とする正方形 (下の図の斜線部分) の面積だから, $20 \times 20 \div 2 = 200$
 $200 \times 3.14 \times \frac{3}{4} = 471$ (cm^2)

- (3) 下の図の太線で囲んだ部分を矢印のように移動すると, 辺 BC が通った部分の面積は,
半径が AC の円の面積の $\frac{3}{4}$ から半径が AB の円の面積の $\frac{3}{4}$ を除いた面積になり,
 $471 - 10 \times 10 \times 3.14 \times \frac{3}{4} = 235.5$ (cm^2)

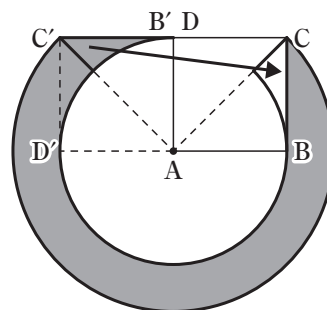
(1)



(2)



(3)



6 規則性

- (1) 段の数に対する, 黒の枚数, 白の枚数, 黒と白の枚数の和, 黒と白の枚数の差の関係をまとめると右の表のようになっている。

段	1	2	3	4	...	$\square$
黒 (枚)	1	3	6	10	...	$1+2+3+\dots+\square$
白 (枚)	0	1	3	6	...	$1+2+3+\dots+(\square-1)$
黒+白 (枚)	1	4	9	16	...	$\square \times \square$
黒-白 (枚)	1	2	3	4	...	$\square$

9 段では黒と白の枚数の和は, $9 \times 9 = 81$ (枚)

- (2) 黒が白より 30 枚多いときは 30 段で, 黒の枚数は,

$$1+2+3+\dots+30 = (1+30) \times 30 \div 2 = 465 \text{ (枚)} \quad \text{または,} \quad (30 \times 30 + 30) \div 2 = 465 \text{ (枚)}$$

- (3) 黒と白の枚数の和を黒と白の枚数の差でわると段の数になる。 $(23+21) \div (23-21) = 22$ (段)

一 説明的文章

- 問 1 内容理解の問題です。「私たちは光をどこで感じているのだろうか。」(P.1 上 4 行目) という問いに対し、「私たちは目で光を感じている。／そんなことは当たり前である。」と答えています。この「当たり前」の答えは、1 ページ下段でも繰り返されていますが、それに続けて、「しかし、私たちは、本当に目だけで光を感じているのだろうか。」(P.1 下 15 行目) という問いが、「たとえば、太陽の光が当たった手の甲は温かい」という例とともに提示されています。そして、「太陽の光が当たった手の甲は温かい」理由は、そのあとに「これは太陽光に含まれる赤外線を、肌が感知しているからである」(P.1 下 17・18 行目) と説明されています。——①「陽の光が当たると、手の甲が温かい」という文に類似した「(たとえば、) 太陽の光が当たった手の甲は温かい。」という表現に着目してください。
- 問 2 内容理解の問題です。「こんな探究心が、後のファールを作り上げたのである。」(P.1 上 20 行目) とあるので、「探究心(真実を探って明らかにしようという気持ち)」は、若き日のファールに備わっていたものであることがわかります。指示語の指す内容は、指示語より前にあるのが原則ですので、ここでも、前の部分から「こんな探究心」に当たる内容を探していきます。「幼き日のファールは、太陽がまぶしいのはどうしてなのか疑問に思った」(P.1 上 7・8 行目) のですが、そのことを受けて、「当たり前のように思えることを疑問に思うこと、そして、自ら確かめるということが大切なのだ」(P.1 上 16・17 行目) と述べています。この「当たり前のように思えることを疑問に思うこと、そして、自ら確かめるということ」が、「こんな探究心」に当たります。以上から、えが正解になります。あは「常識をくつがえすというような探究心」、いは「すべて文献にあたり」、うは「熱心に聞くというような探究心」と、範囲や対象を限定している点でそれぞれ適切ではありません。
- 問 3 内容理解の問題です。「光をどこで感じているのだろうか」という問いに対する答えは、「目で光を感じている」ですが、それをもう少し詳しく述べた表現が、「目から入ってきた光を、最終的に脳で認識する」(P.1 下 2 行目) です。筆者は、そのことを説明するにあたり、「テレビ」を例に挙げています。「テレビ」は、「映像や音声を電気信号に変換して送信する。そして、……受信した電気信号から、映像と音声を作り出す」(P.1 下 5・6 行目) ものですが、「目のしくみもまったく同じである」とし、「目の奥にある網膜で捉えられた光は、……」で始まる段落の中で詳しく説明されています。「Ⅰ」が光を捉える」とあるので、光を捉えるものは何かと「三字」の言葉を探していくと、「網膜で光を捉える役割をしているのはオプシンと呼ばれるタンパク質でできた受容体である」(P.1 下 10～12 行目) とあるので、「受容体」になります。また、「捉えた光をⅡ 脳に伝える」とあるⅡ には、「電気信号に変換」して、「電気信号を元に」に類する言葉があてはまると見当がつきますが、設問が指定する「六字」に合う言葉は、この段落では見つかりません。そこで、前後を見ていくと、「Ⅰ A」、目に入ってきた光を、信号に変えて脳に送らなければならないのだ」(P.1 下 3・4 行目) とあります。この「信号に変えて」が、字数からも内容からも適切であることがわか

ります。さらに、Ⅲにあてはまる言葉としては、本文の「私たちの脳はその電気信号を元にして、映像を作り出すのである」(P.1 下 9・10 行目) から、「(脳が) 映像を作り出す」となることがわかります。

問 4 適切な接続語を空欄にあてはめる問題です。前後の内容から判断していきます。Aは、あとの「目に入ってきた光を、信号に変えて脳に送らなければならない」が、前の「(私たちは) 目から入ってきた光を、最終的に脳で認識する」を説明しているのので、「つまり」があてはまります。Bは、「私たちは、本当に目だけで光を感じているのだろうか」(P.1 下 15 行目) ということの例である「(たとえば、) 太陽の光が当たった手の甲は温かい」と、あとの「太陽光の紫外線を浴びると、私たちの肌は日焼けをする」は、対比されている内容なので、「あるいは」があてはまります。以上から、A「つまり」と B「あるいは」の組み合わせである **う** が正解になります。

問 5 ぬけている段落を本文に戻す問題です。ぬけている段落は一文から成り、「たとえば」で始まっています。「たとえば」は、前に述べられている内容の例になることがらがあとに続くことを表します。「タコは、皮膚の細胞が光を感知して、まわりの環境にあわせて皮膚の色を変化させる……」が、どのような内容の例になるのかを読み取っていきます。その際、手がかりとなるのが、「(タコの) 皮膚の細胞が光を感知し」という言葉です。以上の観点から元に戻すところを探していくと、「皮膚が光を感じるというのは、……」で始まる段落と、「私たちの皮膚が光を感知したとしても、何ら不思議はないのだ。」という一文で始まる段落の間、すなわち、**【お】** が適切だということがわかります。

問 6 内容理解の問題です。設問に「紫外線に対して肌が示す防御反応」とあるので、「紫外線」について述べられている部分に着目します。「B、太陽光の紫外線を浴びると、私たちの肌は日焼けをする。」という一文のあとには、「肌が紫外線を防ぐためにメラニンという黒い色素を作り出すのだ。」(P.1 下 21・22 行目) という一文が続いています。この「メラニンという黒い色素を作り出す」ことが、紫外線に対して肌が示す防御反応なのです。

問 7 内容理解の問題です。「人間の目の進化は、謎に満ちている」とありますが、「人間の目の進化」を具体的に説明すると、「『光を捉える』という複雑なしくみを、私たちはどのように獲得した」のかということ、あるいは、「目という不思議な器官がどのようにしてできたのか」ということです。筆者は、「現在の進化論は、『突然変異』と『自然選択』によって説明されている」(P.2 下 15・16 行目) と述べ、その例として、首が短かったキリンから少し首が長くなったキリンへの進化を挙げています。しかし、「この進化論では、目の進化を説明することができない」(P.3 上 4 行目) と結論づけていますが、その理由は、「『目』は極めて高性能で複雑な器官」(P.3 上 5 行目) だからということです。そして、「目が見えるようになるまで、『目』という器官は何の役割も持たないから、未完成の目を持っていたとしても、何のメリットもない」ことと、「目は、進化の過程で突然現れた」ということを、その具体的な理由として挙げています。設問は、「人間の目の進化は、謎に満ちている」ということの理由を問うもので、「目のようなが突然現れたから。」のに入る「十二字」の言葉を求めるものです。前後の言葉に違和感なくつながる言葉を探していくと、「極めて高性能で複雑な器官」があてはまります。

問8 内容を理解し、設問の指示に従って記述する問題です。筆者は、「現在の進化論は、『突然変異』と『自然選択』によって説明されている」(P.2 下 15・16 行目)と述べ、そのことについて、短かった首から少し長い首へと進化したキリンを例に挙げて説明しています。

【短かった首から少し長い首へと進化したキリン】

・キリンの祖先は首が短かった。→少し首の長いキリンが突然変異で生まれたとする。→少し首の長いキリンは、他のキリンよりも高い木の葉を食べることができるので、生存に有利である。→少し首の長いキリンが生き残る。→少し首の長いキリンの子孫は、他のキリンの子孫よりも首が少し長いかもしれない。→少し首の長いキリンの子孫が増えて集団が作られる。《以上の過程を繰り返す》→首の長いキリンに進化する。

【設問】

・「元々はキリンの祖先は首が短かったが、 が生き残り、子孫を増やして進化していった」の にあてはまる言葉を、首の長いキリンの餌のとらえ方に関連づけて書く。本文と設問で共通する言葉に着目しましょう。

例：※(元々はキリンの祖先は首が短かったが、)少し首の長いキリンが突然変異で生まれ、高いところの木を食べることができて、生存に有利なキリン(が生き残り、子孫を増やして進化していった。)

問9 内容理解の問題です。「『目』は極めて高性能で複雑な器官」(P.3 上 5 行目)であり、「突然変異」と「自然選択」によって説明される「現在の進化論」はあてはまらないというのが、筆者の主張です。しかし、現実には「『目』を獲得した生物」は存在したのです。では、どのようにして「目」を獲得したのでしょうか。そこで挙げられているのが、「一説によると、それは植物に由来するとも言われている」として、具体的には、「(効率良く光合成をするために、光を感じるセンサーである) オプシンを含む植物プランクトンを食べた原始的な生物が、(オプシンを) 遺伝子の中に取り込んだ」こと(P.3 下 1・2 行目)で、「目」が出現したのではないかという仮説です。以上の内容を反映している、**あ**が正解になります。いは、「光を感じるセンサーを発達させたと思われる原生的な生物が残っていない」、うは、「目の原型のようなものを持つ原始的な生物が、敵からのがれるためにオプシンという遺伝子を取り込んだ」、えは、「動かなければ生きていけない原始的な生物に徐々に発達していった」などの記述は本文にないので、それぞれ適切ではありません。

問10 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの部分の内容に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。①は、1 ページの上段の内容に合致しています。^{がっち}②は、1 ページ下段前半の内容に合致しています。本文には、「網膜で光を捉える役割をしているのはオプシンと呼ばれるタンパク質でできた受容体である」とあります。③は、2 ページ下段後半から 3 ページ上段前半の内容に対応しています。本文には、「キリンであれば首の短いキリンの祖先種がいて、その後、少し首の長い祖先種も発見されている。そのため、キリンは少しずつ首を伸ばしてきたことが推察されるのだ」とあります。したがって、「首の短いキリンの祖先種やとても首の長いキリンの祖先種が発見されている」とある③は、合致しません。④は、3 ページ上段後半から下段の内容に対応しています。④の前半「植物と人間は似ても似つかない生物でありながら、人

間の体の遺伝子が植物に由来するものであるという仮説」は、本文に書いてある通りですが、後半「人の進化を否定するものだ」に類する内容は本文にないので、合致しません。以上から、①と②はあ、③と④はいということになります。

二 文学的文章

問1 内容理解の問題です。「普段の授業なら思わず眠くなるような空気が漂っているが、今日は違う」(P.6 下2・3行目)とあるので、今日の国語の授業は、普段とは違う授業であることがわかります。どのようなところが違うかと言うと、まず「後ろに立っている保護者たち」(P.6 下6行目)がいること、つまり、授業参観日だったということ、さらに、「将来の夢」というテーマで、「それぞれが作文を発表する」(P.6 下8行目)という授業だったということです。「Ⅰ」が見守る中、「Ⅱ」授業。」とあるので、「Ⅰ」には「保護者たち」が、「Ⅱ」には「作文を発表する」が、それぞれあてはまります。

問2 語句の知識と内容理解の問題です。福島空の前に発表した柴田浩輔の「将来の夢」とは、「いいね浩輔！ プロ野球選手！」という先生の言葉から、「プロ野球の選手になること」だとわかります。さらに、先生は、浩輔に語りかけながら浩輔のおばちゃんの方を見て、「でももう4年生なんだから、野球だけじゃなくて授業中は勉強を真剣にやってね。ねえお母さん」(P.6 下10～12行目)と続けています。つまり、先生は、浩輔のお母さんに同意を求めているのです。以上から、「A」には、いの「同意を求める」があてはまります。先生は、浩輔のお母さんに、あの「同情をさそう」、うの「あきれた顔をする」、えの「苦しい言い訳をする」理由はまったくありません。

問3 登場人物の心情理解の問題です。空が作文用紙を前に掲げ、まさに読み上げようとした瞬間、浩輔がわざと高い声を出して、「僕の夢は女子にモテまくることですっ」と、いかにも空が言っているかのようなフリをしました。クラスから笑いが起きましたが、空は「やめろや！ 違うわ！」と笑いながら浩輔の背中を叩いています。空は、浩輔の言動に対して怒っているわけではありません。さらには、「さっきの浩輔のイジリにも『やめろや！』と強めにツッコミを入れたが、内心では『よくやった！』と思っていた」(P.7 下18・19行目)という記述にも注目しましょう。ここから、笑いが起きたことに満足している空の気持ちを読み取ることができます。したがって、「……笑いがとれたことが、まんざらでもない気持ち」とあるえが正解になります。あは「邪魔をしてきた浩輔にいら立つ気持ち」、いは「先生に指名されてだるそうにしている空」が適切ではありません。空は「あえてだるそうな返事をして」立ったのです。うは「女子にモテたいのは浩輔なのに」「浩輔にあきれる気持ち」が適切ではありません。「女子にモテたい」と浩輔が思っているという記述はなく、また、空は浩輔にあきれているわけでもありません。

問4 登場人物の言動の内容・意味をとらえる問題です。空は、名前を言ったあとに、「宇宙に花火を打ち上げる」という「将来の夢」を話しました。発表したあとに周りを見ましたが、「クラスメイトはみんな、特に変わりなく空を見て」いました。空は期待外れの結果にがっかりしています。なぜなら、空は、「夢を告げた瞬間に『すげー！ ヤバい！ さすが空！』と、大歓声が湧くと信じていた」(P.7 上17・18行目)からです。そして、「あれ？ 聞こえて

なかったのかなあ？」と疑問を抱^{いだ}いています。したがって、以上の内容を反映している**あ**が正解になります。いは、空は、クラスメイトの夢と比べて、自分の夢が「どの夢よりもすばらしいもの」だと思っているというような内容はないので、適切ではありません。うの「特におどろかれることはない」も、実際とは逆なので、適切ではありません。また、「賛辞は先生からも得られるにちがいない」とある**え**も空が意識しているのはクラスメイトなので、適切ではありません。

問5 登場人物の言動の理由をとらえる問題です。空が発表した夢に対し、西川は、^{にしかわ}「えっ！ えっ！ 無理やねんで！ 宇宙って空気ないから燃えへんねんで！」(P.7 上 21・22 行目)と、声をはり上げました。その言葉のあと、「クラスの数人が笑った。数人が笑うと、つられるように、クラス中から小さな笑いが重なっていく」(P.7 上 25・26 行目)という状況になり、笑いが起きたことで^{うれ}嬉しくなった西川は、「てか顔上げたら全員見れるってそれ、どーんだけ大きいロケットやねん！」と続け、その結果、「さらに数人が笑った」(P.7 下 3・4 行目)というような事態にまで発展しました。先生から厳しく注意されても、西川はかまわずに席を立ち、^{また}股のぞきまでしてみせています。空は、「1 年生の^{ころ}頃から、クラスで笑いをとることが大好きだった。……」(P.7 下 15 行目)とあるように、「笑いをとることが大好き」な性格ですが、ここでは、西川が「クラスで笑いをとること」に成功し、調子に乗っていることが、この「西川は止まらず」という表現から読み取れます。

問6 内容理解の問題です。直前の、空は「1 年生の頃から、クラスで笑いをとることが大好きだった。……西川が笑いをとることも^{うれ}嬉しかったし、2 人で^{いっしょ}一緒にふざけ合ったりもした。さっきの浩輔のイジリにも……内心では『よくやった！』と思っていた」(P.7 下 15～19 行目)という内容を受けての「そんな空」とあることに着目します。そういう空の性格を反映しているのは、「……みんなを笑わせることが大好きな人物」とある**う**です。**あ**は、「ライバルである西川よりも自分が笑いをとることを喜ぶ」が適切ではありません。西川をライバル視していますが、西川よりも笑いをとろうと思っているといった記述はありません。いは、「4 年生になってから西川と 2 人で一緒にふざけ合っていて」「浩輔にいじられることがよくある」が適切ではありません。西川と一緒にふざけ合ったのは 4 年生になってからか、浩輔にいじられることがよくあるのかはわかりません。**え**は、「同じ性質の西川からライバル視されている」が適切ではありません。空は西川をライバル視していますが、西川も空をライバル視しているかどうかはわかりません。

問7 登場人物の心情理解の問題です。空の^{じい}爺ちゃんは、「……友達^{だいいしやう}の夢を笑うなんて最低やで。まだみんなは子供なんやから、どんな夢持ってもいいの。空、大丈夫やからね」という先生の言葉に^{おこ}怒っています。爺ちゃんは、先生に「……空の夢が何かおかしいんか！ どんなんてなんじゃ！ 子供やなくなったら、持ったらあかん夢なんか！」(P.8 上 24～26 行目)「なんて先生が！ ^{すご}凄いね！ って！ できるよって言ってやらのじゃ！」(P.8 下 12・13 行目)と言っていますが、ここから、爺ちゃんは、先生の言葉は、①空の夢は、空が子供だから持つ夢で、大人になったら持たなくなるだろう ②空の夢は、実現できないだろう という思いから出たものだと考えていることが読み取れます。したがって、**あ**が正解になります。いは、「今のうちに勉強を真剣にさせようという気持ち」、**う**は、「子供のうちはそんな夢を持っ

でも仕方がないだろうと諦める気持ち」、えは、「花火職人の顔を立てておこうと遠慮する気持ち」が、それぞれ適切ではありません。先生は、空の爺ちゃんが花火職人だと知っているかどうかともわかりません。

問8 内容を理解し、心情を表す言葉をあてはめる問題です。先生は、空の「将来の夢」を笑う西川やクラスみんなに、「友達の夢をケラケラ笑うな！」「友達の夢を笑うなんて最低やで」(P.8 上 10・11 行目) と言って叱っています。したがって、 I には、「七字」という指定から「友達の夢を笑う」があてはまります。また、空の爺ちゃんは、「空の夢が何かおかしいんか！」(P.8 上 25 行目) と言っています。爺ちゃんは、空の夢があたかも「おかしい夢」であるかのようにとらえることができる、先生の「どんな夢」という発言に激怒しています。したがって、 II には、「六字」という指定から「何かおかしい」があてはまります。

問9 語句の知識と内容理解の問題です。「痺れを切らす」には、「(長い間座っていて) 足がしびれる」という意味のほかに、「待ち遠しくて、がまんできなくなる」という意味もあり、ここでは、後者の意味で用いられています。空の母親は、先生に「食ってかかる」爺ちゃんに、もういい加減にしてほしいと思っていたのですが、爺ちゃんはやめないのがまんできなくなり、「もう、お父さんやめ！ ……すみません。連れて行きます」と言って、爺ちゃんを引っぱって廊下へ消えていったのです。本文と同じ意味で用いられている「痺れを切らす」は、いです。

問10 登場人物の人物像の理解の問題です。あ 先生は、「浩輔のおばちゃん」に同意を求めることで笑いをとろうとした場面もありますが、「調子のいい人物」とは読み取れません。い 先生は、空の夢を笑う西川やクラスメイトを、黒板を強く叩いたり大きな声で怒鳴ったりしていますが、そのことで「横柄(おごり高ぶって無礼なこと)な人物」とするのは言い過ぎです。う 「生徒を守るためにだれにでも立ち向かう」というような場面は、本文にはありません。え 空の夢を笑う西川やクラスメイトを、「友達の夢をケラケラ笑うな！」「友達の夢を笑うなんて最低やで」と叱っています。したがって、「正義感が強く悪いことには毅然とした様子で応じる人物」とあるえは、先生の人物像に合います。

問11 内容理解の問題です。雪村さんの発言に「 X 」ときだけは喜ぶことができなかった」とあります。本文に「喜ぶことができなかった」という語句があるのは、7 ページ下段の後半、「とにかくみんなの笑顔が好きだった。／そんな空が、この瞬間だけは、喜ぶことができなかった。……」とあります。「この瞬間」とは、「宇宙に花火を打ち上げること」が「将来の夢」だと発表した空に、「他の男子も西川に続けと『空！ 諦めろ！』『意味不明な夢やん！』」などの声をはり上げ、女子は大きく笑う。西川と同じポーズ(股のぞき)を取るものも数人いた(P.7 下 12～14 行目) という瞬間、つまり、「自分の夢を笑われた」ときということになります。花岡さんの「みんなに自分の夢を否定されたことがショックだった……」という発言も手がかりになります。みんなに笑われたあと、空は先生からなぐさめの言葉をかけられています。この先生の言葉は、空の爺ちゃんが激怒したのですが、本文には「笑いが起きている瞬間は辛かったが、終わってしまうと別の恥ずかしさがある」とあります。次に、 Y の直前には、月野さんの「さんざん否定されているのに、笑いがとれてよかったとはならないよね」という発言があります。したがって、 Y には、「効果がないこと」とい

う意味の、う「ぬかに釘^{くぎ}」があてはまります。最後に、先生に怒^{いか}りの言葉をはいた空の爺ちゃんは、空の母親に連れられて教室を出て行きました。「笑いが起きた時に感じた嫌^{いや}な気持ちは、空の心の中からなくなっていた」とありますが、それは、爺ちゃんが、空の将来の夢を笑ったクラスみんなや空の将来の夢を真面目^{まじめ}に受け取ってくれない先生に、本気で怒^{おこ}ってくれたからだと考えられます。したがって、Zには、「本気で叫^{さけ}んでいる」(P.8 下6行目)という8字が入ります。

三 漢字・語句

問1 漢字の読み書きの問題です。試験の答案は、採点者が見て正誤を判定しますので、漢字に限らず、すべての字、記号をていねいに書くという意識を持ちましょう。漢字の読み、書きの問題の場合、略字や雑で読めない字は正答になりません。

①「(範囲^{はんい}や規模、勢力などを) 広げて大きくする (こと)」という意味の「拡張」です。「張」には、「帳」という似た字もあるので、注意しましょう。 ②「面目をそこなうこと、へま、失敗」という意味の「失態」です。「失態を演じる」などのように使う場合もあります。

③「預」の音読みは「ヨ」で、「預金」などの熟語^{じゅくご}に用います。 ④「尊重」は「たつとび重んじること」という意味で、「個性を尊重する」などのように用います。「重」には「ジュウ」「チョウ」という二つの音読みがありますが、「尊重」の場合は、「貴重品」と同じように「チョウ」と読みます。 ⑤「均一」は「すべて一様なこと、等しいこと、平等」という意味で、「大人子供均一料金」などのように使います。 ⑥「頂」の音読みは「チョウ」で、「頂点」「山頂」などの熟語があります。訓読みの場合、「頂く」「頂き物」と送り仮名^{がな}がつくと「ただ(く)、ただ(き)」ですが、「山の頂」と送り仮名がつかないと「いただき」と読みます。

問2 同義語・対義語の問題です。①「案外＝意外」という同義語です。 ②「厚意^{こうい}＝親切」という同義語です。 ③「手段」は、目的を実現するための方法のことです。したがって、「手段⇔目的」という対義語、「手段＝方法」という同義語になります。 ④「現実」は、現に存在すること(もの)のことで、「現実⇔理想」という対義語です。

四 語句・言葉のきまり

問1 ことわざの知識に関する問題です。ことわざとは、古くから言いならわされている、教えや戒め^{いましめ}を含む短い言葉のことです。言葉の表面の意味そのものではなく、その裏にある教えや戒めを正しく読み取ることが必要になります。 ①「転ばぬ^{ふく}罫^かのつえ」は、「失敗しないうちに、前もって用心する」という意味です。この意味に近いことわざは、「用心に用心を重ねる」という意味の、う「石橋をたたいて渡る」になります。 ②「とらぬたぬきの^{わた}罫^か算用」は、「不確実なことがらに期待して、それを元にしていろいろな計画を立てる」という意味です。この意味に近いことわざは、「絵にかいたモチは食べられないように、観念的・空想的なものは役に立たない」という意味の、え「絵にかいたモチ」になります。 なお、あ「泥棒^{どろぼう}をとらえて縄^{なわ}をなう」は、日頃用意^{ひごろ}を怠^{おこた}っていて、急場に臨^{のぞ}んであわてて準備をすること、い「転んでもただでは起きない」は、たとえ失敗しても、必ず何か利益を得

ようとする、お「たなからぼたもち」は、何もしないでいて思いがけず意外な幸運にめぐり合うことという意味のことわざです。

- 問2 四字熟語の知識の問題です。①「もってのほか、とんでもないこと」という意味の「ゴドウダン」は、「言語道断」と書きます。「言語回断」と書かないように注意しましょう。②「名前だけはあるが、実質が何もないこと」という意味の「ユウメイムジツ」は、「有名無実」と書きます。③「一つのことに心を集中して、気を散らさないこと」という意味の「イッシンフラン」は、「一心不乱」と書きます。④「行いが正しいこと」という意味の「ヒンコウホウセイ」は、「品行方正」と書きます。⑤「油断はものごとの失敗の元であり、何よりも危ないということ」という意味の「ユダンタイテキ」は、「油断大敵」と書きます。したがって、「言 実 不 行 断」の五つの漢字から四つの漢字を使ってできる四字熟語は、「あれこれ言わず、すべきことをだまって実行すること」という意味の「不言実行（フゲンジッコウ）」となり、使わない漢字は「断」なので、正解はおの「油断大敵」になります。

- 問3 文節の係り受けの問題です。文節がどこに係る（修飾する）かは、係る文節と受ける文節を直接つないで、意味が通るかどうかで確認するとよいでしょう。

- ①「（レンガで）できた」何なのか、とみていくと、㊦「建物（で）」になります。②「スズムシの」何なのか、とみていくと、㊤「声（を）」になります。

- 問4 日本語全般に関する問題です。

- ①この文の主部（語）は「（ぼくの）しゅみは」、述語は「作ります」で、主部（語）・述部が対応していません。「（ぼくの）しゅみは」を主部（語）とするなら、「ぼくのしゅみは、乗り物や建築物のプラモデルを作ることです。」、また、「作ります」を述語とするなら、「ぼくは、しゅみとして、乗り物や建築物のプラモデルを作ります。」というような文にするとういでしょう。
- ②「彼は」「学びます」という、主語・述語の文です。「来年から」「日本の大学に」「交換留学生として」は、それぞれ「学びます」に係る言葉ですが、「日本の大学に学びます」は、適切ではありません。「日本の大学で学びます」にすれば正しい日本語になります。
- ③「いそしむ」は、「つとめはげむ」という意味で、漢字で表記すると「勤しむ」になります。したがって、「勉学にいそしんでいる」という表現は、間違いではありません。「姉は」「いそしんでいる」という主語・述語も対応しているので、正しい日本語です。
- ④「発言するのが」の「の」は、「こと」に置き換えることができます。「私は」「発言するの（こと）が苦手です」という文は、日本語としては間違っていない。
- ⑤「他山の石」とは、よその山から出る粗悪な石のことで、そういう石でも、玉を磨く砥石にはなる、つまり、他人のつまらない言行も、自分が立派な人間となるための修養の役には立つものだという意味です。この文では、「他山の石」とするのが「先人の過ち」なので、日本語としては間違っていない。